



欧州委員会の経済見通し（2024年秋）の概要

令和6年（2024年）11月20日
外務省経済局欧州連合経済室

11月15日に欧州委員会が公表した『2024年秋の経済見通し』の概要は以下のとおり。

1 実質GDP成長率

（注）前年比（%）、2024年以降は見通し

	2024年			2025年			2026年		
	変化	今回	前回	変化	今回	前回	変化	今回	前回
EU	↓	0.9	1.0	↓	1.5	1.6	—	1.8	—
ユーロ圏	→	0.8	0.8	↓	1.3	1.4	—	1.6	—

- ✓ EU 経済は停滞が続いた後、緩やかな成長を回復。2024年第1四半期に成長を再開したEU経済は、第2、第3四半期を通じて緩やかながらも安定して拡大を続けた。
- ✓ 賃金の購買力が徐々に回復し、金利が低下するにつれ、消費は更に拡大の見込み。堅調な企業のバランスシート、利益の回復、信用状況の改善を背景として、投資は回復の見込み。復興・強靱化ファシリティ（RRF）やその他EU基金の後押しも、見通し期間中の公共投資の増加を促す。
- ✓ 全体として、EU域内需要が引き続き経済成長を牽引する見込み。

2 インフレ率

（注）前年比（%）、2024年以降は見通し

	2024年			2025年			2026年		
	変化	今回	前回	変化	今回	前回	変化	今回	前回
EU	↓	2.6	2.7	↑	2.4	2.2	—	2.0	—
ユーロ圏	↓	2.4	2.5	→	2.1	2.1	—	1.9	—

- ✓ 2022年末に始まったデysinflのプロセスは継続。サービス部門における価格圧力は依然として高いが、賃金上昇の減速や生産性の向上等により、2025年初頭から緩やかになると見込まれる。
- ✓ これにより、インフレ率は、ユーロ圏では2025年後半、EUでは2026年に、目標（2%）に向かって低下する見込み。

3 失業率

（注）%、2024年以降は見通し

	2024年			2025年			2026年		
	変化	今回	前回	変化	今回	前回	変化	今回	前回
EU	→	6.1	6.1	↓	5.9	6.0	—	5.9	—
ユーロ圏	↓	6.5	6.6	↓	6.3	6.5	—	6.3	—

- ✓ EUの労働市場は2024年上半期は好調、引き続き堅調に推移すると見込まれる。EUの失業率は本年10月、5.9%と歴史的低水準を記録。

4 一般政府の財政収支

（注）GDP比（%）、2024年以降は見通し

	2024年			2025年			2026年		
	変化	今回	前回	変化	今回	前回	変化	今回	前回
EU	↓	▲ 3.1	▲ 3.0	↓	▲ 3.0	▲ 2.9	—	▲ 2.9	—
ユーロ圏	→	▲ 3.0	▲ 3.0	↓	▲ 2.9	▲ 2.8	—	▲ 2.8	—

- ✓ EUの一般政府赤字は対GDP比3.1%と約0.4%減少し、2025年には3.0%が見込まれる。2026年には、プラスの経済モメンタムにより赤字はさらに縮小し2.9%まで低下する見込み。
- ✓ 他方、EU全体の債務残高対GDP比は、2023年の82.1%から2026年には83.4%に上昇が見込まれる。依然として高水準にある基礎的財政赤字と利払い費の増加の影響を反映。

5 リスク

- ✓ 経済見通しの不確実性と下方リスクは増大。ロシアのウクライナ侵略及び激化する中東の紛争は地政学的リスクと欧州のエネルギー安全保障へのリスクを煽っている。貿易相手国による保護主義的措置が増加すれば、国際貿易の重荷になる可能性も。域内政策の不確実性及び製造部門における課題は更なる競争力低下をもたらし、成長の重荷となり得る。スペインの洪水等の自然災害も経済に影響し得る。

（注1）欧州委員会は、経済見通しを年4回（秋11月、冬2月、春5月、夏9月）公表している。

このうち冬と夏に公表される中間見通しでは、実質GDP成長率とインフレ率の見通し値のみを公表している。

（注2）「前回」とは、2024年春（5月）の経済見通しの数値。